

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103079
法人名	株式会社 ハッピーライフ愛
事業所名	グループホーム春風荘
所在地	香川県高松市円座町1300番地2 (電話)087-815-7200

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価決定日	平成22年3月25日

【情報提供票より】(21年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人、非常勤 6 人、常勤換算 15.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3階建ての	2階～	3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~70,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	2回で150 円
	または1日当たり		1550 円	

(4)利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	香川県済生会病院、溝口クリニック、やまぐちクリニック、高松大塚歯科医院
---------	-------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○夜間眠りの浅い人や、昼夜逆転の人、車椅子の人には、夕食後の入浴を始めている。
 ○10時の水分補給時は、夜勤者がコトコトと炊いたスープ(冬場)や、フルーツジュース、野菜ジュース(夏場)を召し上がってもらっている。
 ○個々のADL(日常生活動作)状況が一目でわかる、年間アセスメントシートにより把握でき、ご家族に状況説明ができるようにしている。
 ○要介護5の方でもリハビリパンツから、布パンツで過ごせるよう支援している。
 ○要介護5の方にも、あきらめず外食、みかん狩り、写経などに挑戦していただき、大変家族も喜んでもらっている。(ミキサー食の方は、ミキサーを持って外食している。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は、家庭的な雰囲気の中で安全に安心して暮らしていけるよう、介護の実践が至る所に反映されている。職員が自ら日々目標設定しその実践結果を反省することで、常に前進する努力がされている。また、管理者と職員の関係もよく、すべて共有されている。チームケアに対し一丸となり積極的に取り組む姿勢がうかがえる。そのため、利用者は事業所を自分の家として、生き生きと明るくゆったりと自分らしく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	春風荘の入居者様の理念「みんな仲良く、穏やかな暮らし」を掲げ、地域の方が参加する夏祭りや、秋祭りの獅子舞の乗り入れ、また、天気の良い日の散歩時に地域の皆様との交流の機会がより多く設けられるよう取り組んでいる。	理念を掲示して、全員で共有し実践につなげている。地域密着型サービスの意義を大切に、利用者や地域の交流をしている。2カ月に1回職員で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事、家族会、地域運営推進会議等に気楽に参加いただき、意見交換の機会を持っている。9月には、彼岸花摘みやいちじく狩りをさせていただいた。	事業所からの働きかけにより、地域の人々に活動を積極的・日常的に行なっている。また、情報をキャッチする努力もしている。地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイト4名が、薬品会社や、地域運営推進会議で、「認知症の理解と適切な対応法」の講座を開いたり、また、地域の団体や法人にも講座の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	6カ月に1回の春風荘家族アンケートの結果や、外部評価の報告、業務改善等も報告しご意見を頂き「円座地区防災協力会」も充足し第1回目より参加させていただく事になっている。	2カ月に1回の運営推進委員会には、事業所の取り組み内容・事業サービス等について報告して意見をもらってサービス向上に活かしている。地域の理解と支援を得るために働きかけ、出席者も増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームページを開設している。市担当の方は以前に比べ大変親切にサービスや運営上の相談事がしやすくなってきた。	市担当者と日ごろよりよい関係にあり、市役所の方も日々研鑽して、協力的に話を聞いてくれ相談にも応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を月1回開催し、会社全体で取り組んでいる。やむを得ず、玄関の施錠、ベッド柵が必要と思われる場合は、主治医に意見を聞き、家族の同意を得ている。	毎月1回の身体拘束廃止委員会で主治医と話し合い、拘束について考えたり研修会を開催して正しく理解の上決定している。3カ月ごとに介護計画を見直して家族に同意を得ており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束や起こり得るリスクをあげて家族に説明、同意を得ているが、その経緯の記録(日時・内容・説明者等)を残してほしい。さらに、施錠を含めた身体拘束をしないケアについて、利用者の具体的安全策を対話や記録の中からケアの気づきを得て実践されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の全体業務会議後に「虐待防止委員会」を開催し、会社全体で事例検討や対策を考えている。見過ごす事の無いように、全員に注意している。		

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度について知らない職員もいるので、関連資料を配布し研修会に取り入れている。家族の申し入れがあれば連絡調整できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり説明をしている。入居しても不明な内容についてはその都度説明をしている。また、変更があれば、担当者会議や、家族会でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談窓口の提示や意見箱を設置している。また、面会時、家族会、定期的な家族アンケートにより、ご意見、要望が自由に言える機会を設けている。アンケート結果報告もしている。	意見箱設置、面会時、各会議時、アンケート等で意見を出しやすい環境を整えている。また、日ごろより話しやすい関係づくりに心がけている。その意見は前向きに受け止め毎朝のミーティングなどで話し合っ、速やかに対応しケアに反映させている。結果報告もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務カンファレンスや運営会議等で意見を出し合い、日々の業務に反映している。	月1回定期的な意見交換や個人的に声をかけ話す機会を設けている。日ごろよりコミュニケーションに心がけていて、話しやすい雰囲気にある。意見は速やかに運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アイデアや業務改善を提案し採用できた場合は、昼食券のプレゼント、昇格、昇給を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月プログラムにそって計画的に研修をしたり、必要な時、ロールプレイングでオムツ交換、清拭、緊急時の入院準備、電話応対などを行っている。また、社外研修は交替で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と11月に相互評価を行い、お互いに気づきを持ち、新しい取り組み(例:夜間入浴)でサービスの向上を目指している。10月には、グループホーム四国交流フォーラムで実践報告も出来た。		

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当職員をつけ、困った事、不安な事、何でも気軽に話せるよう信頼関係を深めている。また、月1回の入居者様との運営会議はみんな得意そうに生活歴をお話しされとても楽しいひと時である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から家族と話す時間を充分にとり、不安感、困った事、要望等をよく聴くようにしている。また、入居1~2週間は、ホームの生活の様子をこまめに電話でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、カンファレンスを開き入居者にとって必要な支援をしている。 (定期的な訪問リハビリ、歯科、往診などの説明)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を尊重し、プライバシーを守りながら声掛けし、入居者と共に食事づくり、洗濯物たたみ、新聞折り等、それぞれの方に適した役割分担をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、面会、担当者会議、アンケート等で、家族の思い、考え、不安、心配事などを伺い、毎月1回担当職員より、近況報告をお手紙でお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、兄弟、親類への連絡の希望があれば、電話の取次ぎをし関係が途切れないよう支援したり、お気に入りの理美容院に出かける方もいる。	利用者を取り巻く人間関係の把握に努め、支えながら積極的にアプローチしている。家族、親戚、友人などへ希望時電話の取次ぎやなじみの理美容院へ出かけるときなど一人ひとりの生活習慣を尊重して柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で見守りや、食事の案内、散歩時は手をつなぐ等、仲良く助け合って生活している姿が見受けられる。		

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をした場合は連絡を取り合ったり、他施設に行かれた方には家族より様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に趣味や経験を把握しカンファレンスを行い希望に添えるようにしたり、毎月の運営会議で要望を聞いたり、食事の嗜好アンケート等で要望の把握に努めている。	入居時に本人家族から情報を得たり、利用者との毎月の話し合いで要望を聞いている。また、日々会話の中で回想法を活用するなどして把握に努めている。カンファレンスで話し合ったり家族と話し合って生活を支えるためのアセスメントをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月の運営会議のテーマに沿って、生まれ育った所や、両親の事、催事の風習など、楽しそうにたくさん発表してくれているので把握しやすい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のアセスメントが一目でわかる1年観察チェックシートの取り組みをはじめた。また、たくさんの写真集で表情が把握でき、ご家族にもお見せしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が中心になって話し合い、個別性のある介護計画を作成している。	3か月に1回、毎日の記録や担当者を中心に個別の具体的な介護計画を作成している。また、敬老の日に利用者と担当者が「私の目標」を作成し、それを反映させた介護計画を作成している。変更時、チームで話し合いその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分補給、口腔ケア、散歩、機能訓練など個別のチェックシート記録を計画上に反映している。また、気になることは、必要に応じて申し送りノートで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援、入退院の連絡調整や、入院中の情報収集の支援をしている。また、家族が洗濯できない場合はホームでしたり、オムツの管理もしている。		

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防による避難訓練の指導や、ボランティア、地域、学校の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に診察が必要な方には家族や本人の希望を聞き、出来るだけ希望にそよう支援している。看護師が同行したり、利用者の状況に合わせ支援している。主治医と連携を取りながら継続して医療が受けられるよう配慮している。	利用者・家族と話し合いながら受審希望にそえるよう家族同行やスタッフ代行で通院介助をし、情報交換も行われ適切に受診できている。医療関係のカンファレンスもあり、意見交換や勉強会をして医療機関との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師を配置しており主治医との連携も行っている。入居者、ご家族は安心されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から病態の把握に努め安心して退院し、元のホーム生活に戻れるよう情報交換している。また、体力、筋力の回復を願い、訪問リハビリの先生とも連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2008年7月より、重度化対応に関する指針を医療関係者、家族、職員が共有し取り組んでいる。看護師は3カ月に1回の担当者会議において、本人、家族と相談のもと、意向確認をする事になっている。	入居時に本人や家族に説明し希望を聞いている。また、日々の会話よりさりげなく要望を聞き、事業所で出来ることの重度化対応指針を共有している。3カ月に1回、担当者会議にて相談確認している。職員研修で看取りについて家族全員に同意していただけるようチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、家族連絡先、主治医、病歴、薬、年齢などが分かるようにカード化している。特に入浴時の事故に備え、個々にマニュアルを作成し脱衣室に置き、確認し入浴介助に当たっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練予定表に基づき訓練を行っている。年2回は消防署の協力を得たり、標語コンクール、ポスターコンクールには審査もお願いしている。今年は、特別養護老人ホーム岡本荘の訓練にも参加した。	年2回、消防署の協力を得てマニュアル・年間計画を作成し訓練を実施。防火管理者が主体となり災害対策クラブを月1回開催、コンクール方式で災害に備えた意識づけをしている。毎月訓練方法も工夫し全員が身につける努力もしている。利用者の避難方法を図解化し、ホールに貼ってある。	

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録の持ち出し禁止などに気をつけている。また、若年職員による接遇委員会で挨拶や感謝の声掛けなどの確認やチェックを行っている。	事業所全体で尊重し、プライバシーに配慮している。声かけにもさりげないケアに心がけている。情報の守秘義務も理解し、責任ある取り扱い管理に努めている。また、接遇委員会で確認・チェックを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望で自宅、買物、家族と外出などに応じている。行き先は入居者様に選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の思いを聞きながら対応している。運営会議で活発な意見が出ているので、個々の要望を把握、共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からお気に入りの理美容院に行ったり、ホーム内でカット、毛染め、ブローをしたり、その日その時に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に嗜好アンケートをしたり、リクエストメニューを取り入れたり、一緒に準備し、楽しんで食べたり、サポートしたり、入居者の会話を自然な雰囲気で行っている。	利用者の希望を取り入れ事業所の菜園の野菜を使って自然や季節を味わっている。利用者と職員が一諸に準備・食事・片づけをして、一人ひとりの力を活かし関心を引き出せるよう場作り、声かけをしている。時に利用者がお弁当を詰め外で食べたりして楽しく味わえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時の水分補給時は、夏はフルーツジュースや野菜ジュース、冬は夜勤者がコトコトと煮込んだ野菜のコンソメスープを摂取してもらっている。「長生きするわー。」とってくれる等、大好評である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後どの利用者も口腔内清潔の為、歯磨き、吸引ハブラシで洗浄している。また、必要に応じて訪問歯科受診により、いつまでも美味しく口から食事が摂取できるよう支援している		

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、早目にそして声掛けにも工夫し居室のトイレで排泄するよう支援している。特に排便チェック表は、一目でわかるようにしている。	個々の排泄パターンをチェック表使用で、全員が把握して支援している。一人ひとりのサインを気づき、さりげない誘導・気づかれぬ配慮をしたり、オムツをしない・減らすなど排泄自立支援に取り組んでいる。また、ロールプレイでチェック・指導し、排泄支援が出来るよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から繊維質の多い食事や水分補給に努めている。また一人ひとりの排便チェックが一目で把握でき、センナ茶の飲用、散歩、体操などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴アセスメントシートにより、夜間入浴を目指し試験的に取り組み夜間の睡眠の状況を観察したり、満足度アップ、転倒防止を目指したい。	個々のアセスメントシートで、利用者理解をして入浴支援の配慮をしている。また、希望により夜間入浴も取り入れ、くつろいだ気分で楽しく入浴が出来るよう取り組んでいる。嫌がる人へも安心して入浴が出来るよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中入浴から夜間入浴へと考えている。寒い冬は、特に暖かい間に気持ちよく眠れるよう取り組み始めた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、個々の内服薬をチェック観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康状態を見ながら、ウッドデッキのお花作り、水やり、料理の手伝い、洗濯物たたみ、ゴミ捨て等、気晴らしや、役割を共に楽しみながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の身体レベルに合わせて散歩、外出支援をしている。ご家族がこられた時、一緒に買物に行ったり、温泉に行ったりする利用者もいる。	一人ひとりに合わせた外出方法を支援できるよう努めている。季節や地域の状況・協力を合わせ弁当を持ってでかけたり、困難な利用者も車・車椅子など使い必要器具持参で積極的に外出支援している。家族参加で買い物・温泉など普段出かけにくい場所にも希望をかなえ、外出が楽しく過ごせる工夫をしている。	

グループホーム春風荘(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力のある方については本人に管理してもらっている。自己管理できない方は、預かっているお小遣いで買物をしてもらっている。個別に管理し出納帳をつけ、定期的に家族に確認印をもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使って居室でも使用できる。手紙が自由に書けるよう便箋、封筒を準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て自然木を使用し「和」を生かしており、ホール中心にして集える場所や機能訓練器具を設置している。	ホール中心に共有空間があり、気持ちいい自然光が入り時々電車の通過の音がしたり、所々へ季節の花や季節感のある置物が生活空間に飾られていて居心地よく生活できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けたり、ホールを工夫して一人でも安心してかけられるソファを置いたり、ウッドデッキを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で家具や思い出の物を自由に持ち込んでいる。備え付けのクローゼットやソファベッドも各自で工夫している。	備え付けのクローゼット・ベッド・テレビや冷蔵庫などが一人ひとり好みに配置され、落ち着いて過ごせる工夫がされている。また、持込で使い慣れたものも置きその人らしく生活が出来る。家族ともゆっくり話したり泊れるようソファベッドもあり、家族との時間も大切に出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の程度、理解力に応じ自然な形で出来るホールで、テレビを見る人、洗濯物たみ、ごみ捨て、モップかけ、調理の手伝い、花の手入れ、作品作り、生花、押し花作りなど、思い思いに楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	春風荘の入居者様の理念「みんな仲良く、穏やかな暮らし」を掲げ、地域の方が参加する夏祭りや、秋祭りの獅子舞の乗り入れ、また、天気の良い日の散歩時に地域の皆様との交流の機会がより多く設けられるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事、家族会、地域運営推進会議等に気楽に参加いただき、意見交換の機会を持っている。9月には、彼岸花摘みやいちじく狩りをさせていただいた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイト4名が、薬品会社や、地域運営推進会議で、「認知症の理解と適切な対応法」の講座を開いたり、また、地域の団体や法人にも講座の呼びかけをしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6カ月に1回の春風荘家族アンケートの結果や、外部評価の報告、業務改善等も報告しご意見を頂き「円座地区防災協力会」も発足し第1回目より参加させていただく事になっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームページを開設している。市担当の方は以前に比べ大変親切にサービスや運営上の相談事がしやすくなってきた。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を月1回開催し、会社全体で取り組んでいる。やむを得ず、玄関の施錠、ベッド柵が必要と思われる場合は、主治医に意見を聞き、家族の同意を得ている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の全体業務会議後に「虐待防止委員会」を開催し、会社全体で事例検討や対策を考えている。見過ごす事の無いように、全員に注意している。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度について知らない職員もいるので、関連資料を配布し研修会に取り入れている。家族の申し入れがあれば連絡調整できる体制をとっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり説明をしている。入居しても不明な内容についてはその都度説明をしている。また、変更があれば、担当者会議や、家族会でお知らせしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談窓口の提示や意見箱を設置している。また、面会時、家族会、定期的な家族アンケートにより、ご意見、要望が自由に言える機会を設けている。アンケート結果報告もしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務カンファレンスや運営会議等で意見を出し合い、日々の業務に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アイデアや業務改善を提案し採用できた場合は、昼食券のプレゼント、昇格、昇給を実施している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月プログラムにそって計画的に研修をしたり、必要な時、ロールプレイングでオムツ交換、清拭、緊急時の入院準備、電話対応などを行っている。また、社外研修は交替で参加している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と11月に相互評価を行い、お互いに気づきを持ち、新しい取り組み(例:夜間入浴)でサービスの向上を目指している。10月には、グループホーム四国交流フォーラムで実践報告も出来た。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当職員をつけ、困った事、不安な事、何でも気軽に話せるよう信頼関係を深めている。また、月1回の入居者様との運営会議はみんな得意そうに生活歴をお話しされとても楽しいひと時である。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から家族と話す時間を充分にとって、不安感、困った事、要望等をよく聴くようにしている。また、入居1～2週間は、ホームの生活の様子をこまめに電話でお知らせしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、カンファレンスを開き入居者にとって必要な支援をしている。(定期的な訪問リハビリ、歯科、往診などの説明)
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を尊重し、プライバシーを守りながら声掛けし、入居者と共に食事づくり、洗濯物たたみ、新聞折り等、それぞれの方に適した役割分担をしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、面会、担当者会議、アンケート等で、家族の思い、考え、不安、心配事などを伺い、毎月1回担当職員より、近況報告をお手紙でお知らせしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、兄弟、親類への連絡の希望があれば、電話の取次ぎをし関係が途切れないよう支援したり、お気に入りの理美容院に出かける方もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で見守りや、食事の案内、散歩時は手をつなぐ等、仲良く助け合って生活している姿が見受けられる。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をした場合は連絡を取り合ったり、他施設に行かれた方には家族より様子を伺ったりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に趣味や経験を把握しカンファレンスを行い希望に添えるようにしたり、毎月の運営会議で要望を聞いたり、食事の嗜好アンケート等で要望の把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月の運営会議のテーマに沿って、生まれ育った所や、両親の事、催事の風習など、楽しそうにたくさん発表してくれているので把握しやすい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のアセスメントが一目でわかる1年観察チェックシートの取り組みをはじめた。また、たくさんの写真集で表情が把握でき、ご家族にもお見せしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が中心になって話し合い、個性のある介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分補給、口腔ケア、散歩、機能訓練など個別のチェックシート記録を計画上に反映している。また、気になることは、必要に応じて申し送りノートで共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援、入退院の連絡調整や、入院中の情報収集の支援をしている。また、家族が洗濯できない場合はホームでしたり、オムツの管理もしている。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防による避難訓練の指導や、ボランティア、地域、学校の協力を得ながら支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に診察が必要な方には家族や本人の希望を聞き、出来るだけ希望にそよう支援している。看護師が同行したり、利用者の状況に合わせ支援している。主治医と連携を取りながら継続して医療を受けられるよう配慮している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師を配置しており主治医との連携も行っている。入居者、ご家族は安心されている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から病態の把握に努め安心して退院し、元のホーム生活に戻れるよう情報交換している。また、体力、筋力の回復を願い、訪問リハビリの先生とも連携をとっている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2008年7月より、重度化対応に関する指針を医療関係者、家族、職員が共有し取り組んでいる。看護師は3カ月に1回の担当者会議において、本人、家族と相談のもと、意向確認をする事になっている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、家族連絡先、主治医、病歴、薬、年齢などが分かるようにカード化している。特に入浴時の事故に備え、個々にマニュアルを作成し脱衣室に置き、確認し入浴介助に当たっている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練予定表に基づき訓練を行っている。年2回は消防署の協力を得たり、標語コンクール、ポスターコンクールには審査もお願いしている。今年は、特別養護老人ホーム岡本荘の訓練にも参加した。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録の持ち出し禁止などに気をつけている。また、若年職員による接遇委員会で挨拶や感謝の声掛けなどの確認やチェックを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望で自宅、買物、家族と外出などに応じている。行き先は入居者様に選んでもらっている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の思いを聞きながら対応している。運営会議で活発な意見が出ているので、個々の要望を把握、共有している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からお気に入りの理美容院に行ったり、ホーム内でカット、毛染め、ブローをしたり、その日その時に合った支援をしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に嗜好アンケートをしたり、リクエストメニューを取り入れたり、一緒に準備し、楽しんで食べたり、サポートしたり、入居者の会話を自然な雰囲気で行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時の水分補給時は、夏はフルーツジュースや野菜ジュース、冬は夜勤者がコトコトと煮込んだ野菜のコンソメスープを摂取してもらっている。「長生きするわー。」と言ってくれる等、大好評である。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後どの利用者も口腔内清潔の為、歯磨き、吸引ハブラシで洗浄している。また、必要に応じて訪問歯科受診により、いつまでも美味しく口から食事が摂取できるよう支援している

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、早目にそして声掛けにも工夫し居室のトイレで排泄するよう支援している。特に排便チェック表は、一目でわかるようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から繊維質の多い食事や水分補給に努めている。また一人ひとりの排便チェックが一目で把握でき、センナ茶の飲用、散歩、体操などで対応している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴アセスメントシートにより、夜間入浴を目指し試験的に取り組み夜間の睡眠の状況を観察したり、満足度アップ、転倒防止を目指したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中入浴から夜間入浴へと考えている。寒い冬は、特に暖かい間に気持ちよく眠れるよう取り組み始めた。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、個々の内服薬をチェック観察している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康状態を見ながら、ウッドデッキのお花作り、水やり、料理の手伝い、洗濯物たたみ、ゴミ捨て等、気晴らしや、役割を共に楽しみながら支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体レベルに合わせて散歩、外出支援をしている。ご家族がこられた時、一緒に買物に行ったり、温泉に行ったりする利用者もいる。

グループホーム春風荘(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力のある方については本人に管理してもらっている。自己管理できない方は、預かっているお小遣いで買物をしてもらっている。個別に管理し出納帳をつけ、定期的に家族に確認印をもらっている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使って居室でも使用できる。手紙が自由に書けるよう便箋、封筒を準備している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て自然木を使用し「和」を生かしており、ホール中心にして集える場所や機能訓練器具を設置している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けたり、ホールを工夫して一人でも安心してかけられるソファを置いたり、ウッドデッキを確保している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で家具や思い出の物を自由に持ち込んでいる。備え付けのクローゼットやソファベッドも各自で工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の程度、理解力に応じ自然な形で出来るホールで、テレビを見る人、洗濯物たたみ、ごみすて、モップかけ、調理の手伝い、花の手入れ、作品作り、生花、押し花作りなど、思い思いに楽しんでいる。